

Bisabolol oxide A の抗搔痒効果に関する検討

○緒方 郁子¹, 林田 朋子¹, 古川 たをり¹, 石川 友理恵¹, 野田 麻未¹,
山崎 啓之¹, 瀬尾 量¹(¹崇城大薬医療薬剤学)

【目的】我々はこれまでに、乾燥ジャーマンカモミール essential oil (以下、GC-EO) 中の bisabolol oxide A (以下、BSBO) がアトピー性皮膚炎モデルマウスの抗搔痒活性主成分であること、さらに BSBO の安全性について報告してきた。本研究では、BSBO 単独投与時の用量依存性および至適投与量について検討した。

【方法】乾燥ジャーマンカモミールから水蒸気蒸留により得られた GC-EO および BSBO、ポジティブコントロールである抗ヒスタミン薬 fexofenadine を 6~8 週齢雄性 ICR マウスに単回経口投与した。経口投与 1~2 時間後、ヒスタミン遊離促進物質である compound48/80 をマウスの後背部に皮内投与し、投与直後から 30 分間自動搔痒測定装置 Micro Act® にて観察容器内でのマウスの後肢搔痒行動（自発運動を除く）を記録し、各成分の抗搔痒効果を解析・評価した。また、オープンフィールド法により自発行動量測定も併せて行った。

【結果・考察】自発行動量測定試験では、コントロール群と BSBO 各群（3, 7, 10, 30mg/kg）においていずれも有意差が見られなかったことから、BSBO は中枢神経系に対し影響を及ぼさないことが示唆された。また、GC-EO（300mg/kg）および BSBO の単回経口投与（3, 7, 10, 30mg/kg）を行ったところ、GC-EO では強力な抗搔痒効果が確認されたが、BSBO における用量依存性は確認できず、10, 30mg/kg 投与群ではむしろ搔痒を誘発する傾向が観察された。以上のことより、GC-EO 中の BSBO 以外の成分が活性を持つこと、もしくは BSBO と他の成分が相加あるいは相乗的に作用していることが推察された。